

さわやかトカラ情報

南北160km 「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

4月・・・「十島の教育」新たなる再スタート

十島村教育長 有村 孝一

先週金曜日の帰宅途中、鹿児島港に停泊する船の明かりが目にとまった。光に誘われて港に足を運ぶと、周囲は見送りの人であふれていた。十島村に向かう「フェリーとしま」の出港風景である。



株立つのは各島の学校に赴任する教職員たちだ。のぼりや横断幕がたなびく毎年恒例の光景に、激励と感謝が入り交じる。様々な思いも去来して名残はつきないのだろう。

今年は新しい肩書きの2人も出発した。諏訪之瀬島と小宝島の両小・中学校に赴任する校長である。…両島の分校は廃止され、本校として再スタートする。…深夜、港を離れ始めたフェリーとしまは、日頃は鳴らさない汽笛を、エールのように鳴らした。

～4月5日付け南日本新聞の「南風録」～
余り録のない南風録に取り上げられた、十島村に行く先生方の赴任風景です。深夜23時に、大変賑わっていたところを記者の方が通りかかったようです。



あの日、4月1日には、村教育委員会はもちろん、県教職員課長、鹿児島教育事務所長をはじめとする多くの皆さんが見送りに来てくださいました。

これに先だって、14時から転入教職員宣誓式が行われました。そして、肥後正司村長と鹿児島教育事務所の大脇俊朗所長からは、激励の挨拶をいただきました。

平成28年度は、新たに情熱あふれる41人の先生方に赴任していただきました。それぞれの島で、先生方ならではの教育に励んでいただきたいと思っています。



4月5日は、諏訪之瀬島小・中学校の開校式が行われました。式では、86年ぶりに赴任した校長に村長から校旗が渡され、新生諏訪之瀬島小・中学校がついに開校しました。参加した島の人々の顔も喜びでいっ

ぱいでした。気象の関係で、次の日に予定した小宝島小・中学校の開校式には行けなくて、誠に残念でしたが、無事に開校式を終え、歩みを始めました。これからは、初代校長を中心として、独り立ちした両校の新たな歴史を重ねていただきたいと思います。十島村の教育は、7校が本校になったことにより、今まで以上に充実したものになっていきます。94名の児童生徒と72名の先生方が力を合わせて、ここでしか味わえない教育をしていただきたいと思います。十島村の教育目標は、南北160km「心をつなぎ、気概に満ちた」十島の教育です。夢がどんどん膨らみます。



平成28年度転入教職員宣誓式

4月1日(金)午後2時、十島村役場4階大会議室で転入教職員宣誓式が開催されました。肥後村長、大脇教育事務所長、有村教育長の激励の言葉に対して、小宝島小・中学校の田畑浩和校長が「不安もあるが、島の人たちが助けてくれると思う。住民の方々と

の交流を大切に、教育公務員としての自覚をもって臨みたい。」と挨拶しました。その後、職員は、学校毎に前に出て、一人ずつ挨拶をされました。どの先生にも、不安と緊張の中に「島の子どものために頑張るぞ!」という意欲が溢れているようでした。

平成28年度は、児童生徒数が昨年度より9人増の94人、教職員数は10人増の72人となりました。平成28年度は、児童生徒数も教職員数も増えて、ますます子どもたちの活躍が楽しみになりました。

学校名・校種	小学校転入者	中学校転入者	合計
口之島小・中学校	3人	2人	5人
中之島小・中学校	1人	3人	4人
諏訪之瀬島小・中学校	3人	3人	6人
平島小・中学校	2人	2人	4人
悪石島小・中学校	4人	1人	5人
小宝島小・中学校	3人	3人	6人
宝島小・中学校	4人	7人	11人
合計	20人	21人	41人



シリーズ——新聞に投稿
(平成28年4月14日南日本新聞掲載)
小宝島中学校2年 清水宏太郎

校庭ではガザニアやパンジーの花が咲き乱れ、気持ちのよい海風が吹き抜ける季節になりました。3月に3人の先生と2人の児童生徒が島を去り、にぎやかだった学校も寂しきでいっぱいでした。それだけに、はじめての校長先生と3人の先生、新しい仲間が増えることを心待ちにしていました。小宝島小・中学校は、小学生と中学生と一緒に活動する学校です。全校13人ですが、みんな力を合わせてチームワークを大切にがんばっています。



海で泳ぐ「水泳教室」や島の人たちと協力し合う「運動会」「文化祭」など、他の学校にない行事がたくさんあります。先生と一緒に活動できるのが楽しみです。小宝島分校が廃校になり、今年から新しく小宝島小・中学校になりました。今までの伝統を守りつつ、新しい学校の歴史を先生と一緒に築いていきたいと思っています。

村内2校で開校式

平成28年4月5日(火)午後1時30分から諏訪之瀬島小・中学校で、4月7日(木)午後4時から小宝島小・中学校で、それぞれ開校式が開催されました。分校の長い歴史に幕を閉じて、本校としての新たな学



校のスタートを、それぞれの島民全体で祝いました。村長や教育長からお祝いの言葉があり、諏訪之瀬島小・中学校では、吉永久志校長が、「分校の歴史を引き継ぎながら、新たな歴史を作り上げるため、羽ばたいていきましょう。」と、小宝島小・中学校では、田畑浩和校長が、「保護者や地域住民からの期待に応えることが本年度の最重要課題。身を引き締めて臨みたい。」と述べました。島民からは、「経験豊かな校長先生が来てくれて心強い。」と、学校への期待感が寄せられています。



シリーズ——十島村で学ぶ
小学校最高学年として
諏訪之瀬島小学校6年 金森 七海

私は、諏訪之瀬島に住んでいます。諏訪之瀬島分校は、4月から諏訪之瀬島小・中学校という本校になりました。

私は、新6年生として、下学年のみんなをまとめていくのが一番の目標です。



諏訪之瀬島は小・中学校併設なので、お手本となる中学生のように行動すれば、下学年のみんなをまとめることができると思います。

また、諏訪之瀬島では、吹奏楽の活動があり、私はフルートを担当しています。フルートの指は動かし方がとてもむずかしいので、いっぱい練習して、もっときれいな音が出せるようにしたいです。

そして、文化祭やお別れ演劇会などで、島民の人たちに「すごくきれいだった。」「前よりもずいぶんうまくなったね。』と言われるくらいになりたい。

十島村の小・中学校からのメッセージ

口之島中学校 教諭 岡本 真人

口之島に来て、早くも1年が過ぎようとしています。妻と幼児3人を連れての赴任だったので不安が大きかったのですが、皆様から温かく受け入れていただき、大変感謝しています。島民の方々は、美味しい魚、新鮮な野菜、子どものためのお菓子などを、よく持って来て下さいます。



また、島の子どもたちはいつもうちの子と遊び、よく世話をしてくれます。島の人々の心の温かさに、ありがたい気持ちでいっぱい

です。私が口之島に来て驚いたことに、圧倒的なスケールの大自然があります。透き通ったエメラルドグリーン

の海、前岳をはじめとする雄大な山々、ガジュマルの生い茂る緑豊かな森、すべてがこれまで見たことのないような美しさでした。

もちろん、以前から住んでいる方々にとっては、当たり前風景だと思います。

しかし、初めての来者にとって、この島の自然は感動させられることばかりです。

学校からも、青く広がる太平洋や、圧倒的な存在感の前岳を臨むことができます。教室の窓を開けると、爽やかな風が吹き渡り、波の音や鳥のさえずりが聞こえてきます。これほど自然に恵まれた教育環境はなかなかないでしょう。

その自然に見守られながら、児童生徒たちは授業、委員会活動、部活動、金管バンド、エイサー、地域行事などさまざまなことに一生懸命取り組んでいます。臨海学校や追い込み漁、タケノコ採りなど、ここでしかない貴重な体験も数多くあります。

教職員である「あなた」への

私からのメッセージ

この口之島の素晴らしさをもっと多くの方に知ってもらえればと思い、学校のホームページでいろいろな情報を発信させていただいています。

また、ブログでは、児童生徒の様子を毎日お伝えしています。口之島の良さ、子どもたちの頑張りを、一人でも多くの方々にご覧いただければと思っています。